

河川市民団体が持続するために必要な条件

～浅川の事例考察～

Conditions for sustaining river citizen groups

グループ名：生態系保護膜
 学生氏名：下小牧楽喜¹⁾ 吉村幸恵¹⁾
 指導教員 教員氏名¹⁾, 研究協力者 協力氏名²⁾：中山 賢司¹⁾

創価大学 法学部 法律学科 中山賢司ゼミ

海のゴミ問題は、河川からのゴミが影響を及ぼす。浅川においては、複数の環境市民団体が存在するが、恒常的な活動には至っていない。本研究では、浅川の河川ゴミの現状を整理し、荒川の成功事例を参考に、浅川において河川市民団体が活動する条件として、持続性と波及性を提示する。

キーワード：河川ゴミ, 浅川河川流域, 荒川河川流域, 市民団体の持続条件

【はじめに】

近年、世界各国で環境問題が注目されている。UFZ(2017)によると、海ゴミの約90%は、河川流域由来と試算されている。しかし、この河川流域におけるごみ問題への問題意識は浸透しておらず、実践活動も端緒についたばかりであるほか、活動の持続性と波及性が大きな課題である。そこで本研究では、八王子の浅川に注目し、流域のごみ問題をめぐる、持続可能で、市民の環境保全意識を向上させるための条件について提案したい。

【浅川の市民団体の沿革と課題】

浅川での河川市民団体には、「浅川市民フォーラム」があり、主に浅川マップ作成等の活動をしている。この団体は2004年から活動を続けていたが、高齢化や後継者不足、情報の発信力の弱さにより、現在は活動が縮小している。また、「美しい八王子をつくる会」という清掃活動団体もあり、年に数回、200以上の団体と河川清掃を実施している。だが、頻度が少なく、浅川におけるゴミ除去が追いついていない。そこで、私たちは「河川市民団体が恒常的に活動するために必要な条件は何か」というリサーチクエスチョンとして設定した。

【現在の浅川河川流域のゴミの状況】

まず、河川市民団体を考察するため、浅川河川流域のゴミ状況を調査した。本調査は、一般社団法人 JEAN のクリーンアップキャンペーンの活動の一環として、JEAN 提供の ICC データカードの基準に基づき、市庁舎前浅川河川敷芝生広場内の50m×40mで実施した。回収したごみの総量は2kgだった。ICC データカードの基準に基づき、9つのカテゴリに分類し、各項目の数量を計算した。以下は、その分類の結果である。

▼破片(直径2.5cm以上)		合計
硬質プラスチック破片		3
プラスチックシートや袋の破片		2
発泡スチロール破片		0
*ガラスや陶器の破片		0
合計		5

▼陸域での活動に起因		合計	合計	
タバコの吸殻・フィルター	81	*生活雑貨(歯ブラシ・文具など)		2
タバコのパッケージ・包装	7	おもちゃ(ボール・フィギアなど)		1
使い捨てライター	0	風船		0
飲料用プラボトル(ペットボトル)	2	*花火		0
飲料用ガラスびん	1	くつ・サンダル		0
飲料缶	3	小型電子機器類		0
飲料用パウチ	0	*苗木ポット		0
飲料用ボトルキャップ(プラスチック)	2	荷造り用ストラップバンド		0
飲料用ボトルキャップ(金属)	1	プラスチック・発泡スチロール梱包材		8
ストロー・マドラー	0	建築資材(柱・釘・トタン板など)		0
フォーク・ナイフ・スプーン	2	注射器		0
カップ・皿(紙)	0	使い捨てマスク		2
カップ・皿(プラスチック)	1	▼水域(海・河川・湖沼)での活動に起因		
カップ・皿(発泡スチロール)	0	釣り糸		0
食品の包装・袋	0	ルアー(エギ、ワーム)		0
食品容器(プラスチック)	16	ロープ・ひも		0
食品容器(発泡スチロール)	0	漁網		0
レジ袋	1	*発泡スチロール製フロート		0
紙袋	0	*プラスチック製フロート・ブイ		0
生活		かご漁具		0
その他プラスチック袋	0	*カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)		0
ふた(プラスチック)	0	*カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)		0
その他プラスチックボトル	0			

▼特異な項目 (感悪・特記事項などは別紙へどうぞ)

A. タイヤ・家電製品などの大型ごみ、ご当地ごみ、調査外の特異なごみなど → ①品目、②個数
 B. 海外由来のごみ → ①国名、②品目、③個数
 C. ごみによる動物被害 → ①動物名、②生体、③原因になったごみ、④状態
 特になし

表によると、今回のゴミ拾いで最多のカテゴリはタバコの吸殻・フィルターで81個、次いで食品容器（プラスチック）が16個であった。これは、河川敷で人々が遊ぶ際に出たゴミが多く捨てられていることを示している。また、河川敷には遮蔽物が少なく、風で飛ばされて記録されなかったゴミも多いと推測される。これらの現状から、浅川流域における恒常的な清掃活動の必要性が認められる。

【河川市民団体の成功事例】

河川市民団体の成功事例として、「荒川クリーンエイド」がある。この団体は、参加者の気づきを促す活動を目的とし、Panasonic NPO サポートファンドの資金を活用して人材基盤の強化や活動の質の向上、企業向けのマーケティング戦略を進めてきた。これにより、過去23年間で活動会場は約1万箇所以上増え、参加者は8千人以上増加した。また、参加者同士の交流の場ともなり、ゴミに対する意識も59%から89%に向上する成果を上げた。このように、河川市民団体の活動は環境保全意識の向上に貢献していると考えられる。

【提案】

以上の現状と事例から、浅川河川市民団体が恒常的に活動するために必要な条件は、持続性と波及性の確保である。そこで、私たちはこれらの条件達成を目指し、『浅川クリーンエイド』を提案する。

1. 財政

浅川クリーンエイドの財政面の持続性確保のため、一般財団法人セブンイレブン記念財団の助成を活用し、ソーシャルメディアを通じて浅川流域圏の市民や企業を勧誘する。そして、この資金をもとに、市民団体としての持続を目指す。

2. 河川ごみに関する広報の作成や活動の発信

浅川流域の人々に河川ゴミ問題を周知するため、市民と企業・学校を対象に広報を展開する。

市民には SNS での情報発信により参加を促し、特にゴミのホットスポット情報を共有することで地域の清掃カバーを図る。企業・学校には、八王子市の「エコアクション21」参加企業を中心に CSR 活動の一環として、また学校の環境教育の場として河川清掃を提案する。

【おわりに】

以上の提案を通し、より多くの市民が河川ゴミに関心を持ち、河川清掃活動を通して、それぞれの環境意識の改善を測ることができると信じる。

河川ゴミ問題において、浅川に持続可能な公共空間を創造することで、よりきれいな八王子づくりを目指したい。

【参考文献】

- ・UFZ.(2017). *Rivers carry plastic debris into the sea*.from
https://www.ufz.de/index.php?en=36336&webc_pm=34/2017
- ・荒川クリーンエイド・フォーラム「報告集・白書」<https://cleanaid.jp/aboutus/media/annual>
- ・公益財団法人パブリックリソース財団（2015）「Panasonic NPO サポートファンド 社会的インパクト評価 報告書」
https://cleanaid.jp/wp/wp-content/themes/cleanaid_theme/lib/download/panasonic_impact_report.pdf
- ・八王子市（2024）「美しい八王子をつくる会」
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp>
- ・八王子市公式ホームページ「環境経営 エコアクション21 - 八王子市公式ホームページ」
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/life/004/a546973/a154697/p007148.html>